



横浜市立上飯田中学校

## 国際教室の子ども達と共に

志賀 ツヤ子



私はインドシナ難民の受け入れ先である大和定住促進センター・国際救援センターに勤務し日本定住の為の難民相談員をしていました。

平成 16年 3月 31日に退職をしましたが難民の方々と出会い、普通の生活では味わえない喜びと悲しみ・感動と異文化体験とさせていただきました。退職後の 5月 15日から横浜市立上飯田中学校の国際教室支援員として日本来日後の外国籍の生徒の日本語や日本文化を教えています。

此处で横浜市立上飯田中学校の紹介をさせていただきます。

横浜市の西郊に位置し西側には境川を挟んで大和市と隣接しております。学校周辺は横浜市内でも珍しく畑地が多くあり季節の野菜や果物が実り自然豊かな地域で晴れて空気が澄んでいる日には驚くほど近くに大きな富士山や大山・丹沢連山も望まれて学校環境としては恵まれたところと言えるでしょう。

神奈川県下で一番大きい県営いちょう団地や市営上飯田住宅を校区にしており団地にはインドシナ難民や中国残留帰国者とその他 19カ国の外国籍の方々が居住しています。いちょう団地周辺にはベトナムやカンボジアの食材店が 5店舗にベトナムレストラン 2店舗と日本語が話せなくても生活が出来ると言う地域は心豊かに生きられる学区内でもあります。

当校の全校生徒数は 328名で外国籍生徒は 80数名ですが毎年増えて行きます。生徒はインドシナ難民二世の子どもや中国帰国者の子ども達また、海外からはインターネットで検索しアジアの子どもがたくさんいると進んで転校してきた子とこの様な状況から学校全体が国際性を育む環境をたくさん持っております。

此处数年は毎年ベトナムから 9月になると数人の中学生が転入してきます。父兄や転入生のサポートをし制服や体操着関係の購入先や就学援助金の記載方法を教えて混乱が無いようにと対応を進めて行きます。

転入生で 1年生はまだ勉強期間が 2年あり良いのですが 3年生になると大変です。全ての外国籍の子は高校進路を目指しますので受験の準備を進めて行かなくてはなりません。問題は日本語が分からないと何も前に進まない事です。

国際教室担当の先生は専門が国語ですから指導方法は素晴らしく誉めての成長です。また、国際教室にはベトナム・中国籍の入国一年未満の生徒が 10名おります。普通教室の先生方で授業の空いている先生方は国際教室で一对一で向き合い個人授業をしています。先生方の大きな愛情で日本語の上達は抜群です。

私も今年来日したベトナムの生徒と向き合っていますが勤も良く非常に素直で向学心に燃え日本語も次々と覚えてくれて教えがいがあるとはこの事でしょうか。ベトナムでは高い教育を受けてきており英語や数学は普通どおりに教室で授業を受け試験も上出来で

す。日本語の意味が分からない時には英単語で話すとう理解出来る子も多いのです。

子ども達は実力が有っても親子の意思疎通である言葉の問題が起きて来ます。

中学生という年齢的な事もあり親には話しても分からないからと始めから諦めて話さなくなったり学校のお知らせも親の目には届かなかったりと生徒の心がしおれて親も先生も苦勞です。当校はこの問題に取り組むために国際級室に通訳が配置されました。学校からのお知らせは親の手元にわたり 3者面談もスムーズに行われております。言語での勉強の手伝いもして頂きます。また、多くの外国籍の生徒には何時緊急的な事が起こるとも限りません。各国 10名のボランティア通訳の方々に登録し立ち上げました。

長年の難民センター勤務で問題は言葉とと思ってきました。学校では言葉の問題解決に力を注いで来ました。お陰さまで通訳さんには元難民(現日本国籍)の方でベトナム語や中国語もこなして 2ヶ国を同時通訳し先生方や父兄・生徒に言葉で心をつなげます。この学校で良かったと難民の親や生徒は心が温かくなる瞬間でもあります。生徒たちは言葉で力を貰ったのだからと将来は通訳をめざす子が多いのも国際性が育んだ賜物といえるでしょう。

高校進路から外国籍の子ども達にさぼうと 21 教育支援金を進めています。現在は当校出身者 20名がお世話になっています。東京大学院生・慶応大学・横浜市立大学・上智大学・関東大学・東海大学・桜美林大学と素晴らしい将来を見据えて頑張っている難民二世の生徒達に拍手です。また、昨年からは大和市立病院の看護師として就職し患者さんと向き合い元気の言葉や注射を打っている姿は感動ですね。横浜市立保育所に保育士として就職をした子。先日会った子はいすず自動車の研究班に在籍し車の軽量と油の研究をしていると話し将来は日本国籍を取得しベトナム転勤と素晴らしい目標で自分自身も高め輝いていました。この紙面には書ききれないくらいに大勢の難民の二世の子ども達が育っています。当校の外国籍の生徒には良いお手本がたくさん有り将来を明るくしてくれます。

難民という言葉のイメージから暗く受け入れられて来ました。それから数十年経ちます。二世の子ども達は日本社会で元気に立ち上がり高学歴を目指し活躍の場を広げて行っています。日本社会で大きな力となり財産となってきたのは誰にも認めて頂いております。日本で一番多くのインドシナ難民が住んでいる地域で難民二世である中学生に誇りと希望を持たせ育成に関わり成長した子どもたちに出会う喜びに感動と嬉しさを感じる日々です。今後も上飯田中学校の先生方や地域の方々と協力し「愛と感謝」を持って子ども達と向き合い希望に満ちた生活をさせて上げたいと微力ではありますが力を注いで行きたいと願っております。